

国立教育政策研究所

「魅力ある学校づくり調査研究事業」

実践報告

富士市立田子浦中学校



# 田子浦中学校の紹介

全校生徒399人 県職員28人の中規模校



校訓 美に挑む

田子の浦港

大企業（旭化成）

複合型商業施設  
（イオンタウン富士南）

新幹線の駅（新富士駅）

地域や家庭の協力は大きい

# 田子浦中学校の課題

1. 自分から何かをするという意識が低い

➡ 教育目標を小中共通の “自分から” に設定

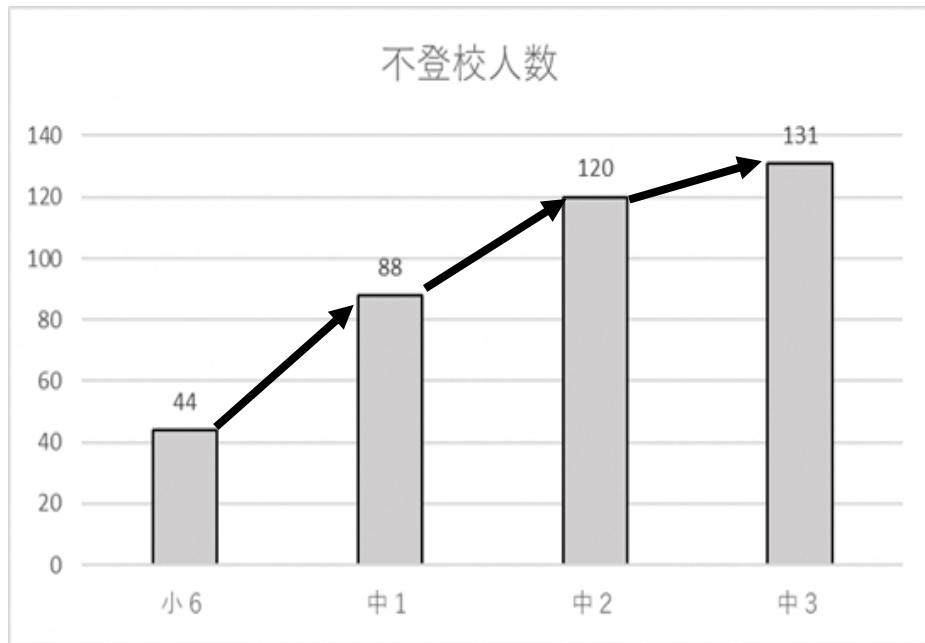
2. 不登校の出現率が高い

不登校出現率 (%)			
	H30年度	R1年度	R2年度
田子浦中	6.59	5.91	5.79
富士市	4.87	5.25	4.88
静岡県	4.28	4.68	4.7
全国	3.65	3.94	4.1

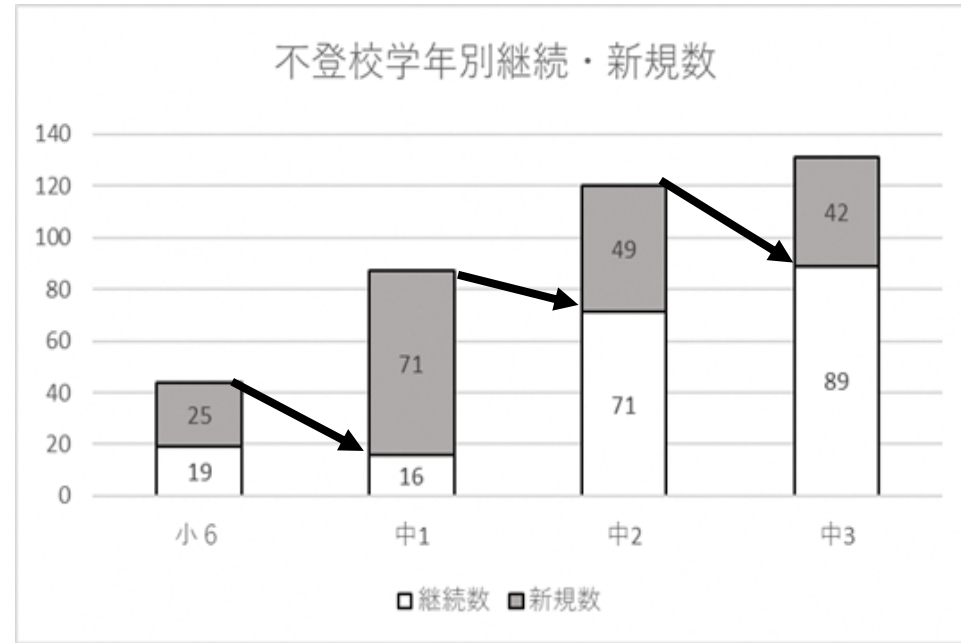
1.8倍

# 不登校二つの視点

## 従来的見方



## 新しい見方



不登校児童生徒数は、小1から中3まで、**学年を追って増える。**

同じグラフを、前年度不登校であった児童生徒(継続数)と前年度不登校でなかった児童生徒(新規数)に分ける。

- ① **不登校児童生徒の一定数は次年度不登校状態を解消する。**
- ② **不登校数が増加しているのは、新規不登校児童生徒が生じているからである。**

# 不登校対策を適切に整理する

未然防止・・・すべての児童生徒に対する不登校にならないことを主目的とした不登校対策  
＝新たな不登校を生まない

集団指導

対象児童生徒  
89%

個別支援

初期対応・・・兆しの見えた一部の児童生徒に対して不登校にならないことを主目的とした対策  
＝早期発見・早期対応

対象児童生徒  
7%

自立支援・・・不登校状態の児童生徒に対して行う社会的自立を主目的とした対策　＝自立支援

対象児童生徒  
4%

# 魅力ある学校づくりとは

みんなで

『**魅力ある学校づくり**』を目指す

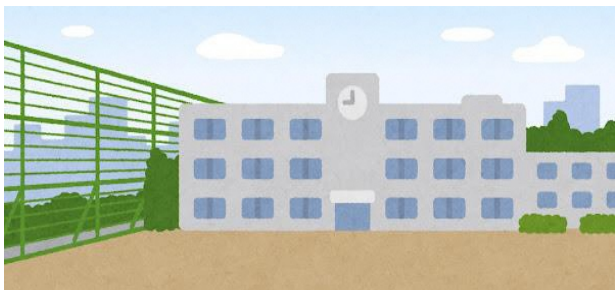
誰もが楽しく登校できる学校

=不登校、問題行動等が生じない学校

=教職員も働きやすい学校

(生徒指導提要の改訂を受けて)

これからは**積極的な生徒指導**



## (2) 具体的な取組

### 児童生徒意識調査

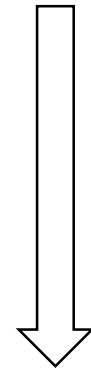
ア 学校が楽しい				
イ みんなで何かするのは楽しい				
ウ 授業に主体的に取り組んでいる				
エ 授業がよくわかる				

当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4
1	2	3	4

必要最小限の調査で負担軽減を図りながら意味のある取組をねらう

- ① 学習と人間関係に絞った質問
- ② 無記名式
- ③ 学年単位で集計
- ④ 強肯定の「当てはまる」に焦点化

ずれのない効果的な取組



集団の質の向上

① 教師のプロとしての感覚と実際のずれを修正し、効果を上げるため

② ターゲットは集団全体

③ 数値からわかること

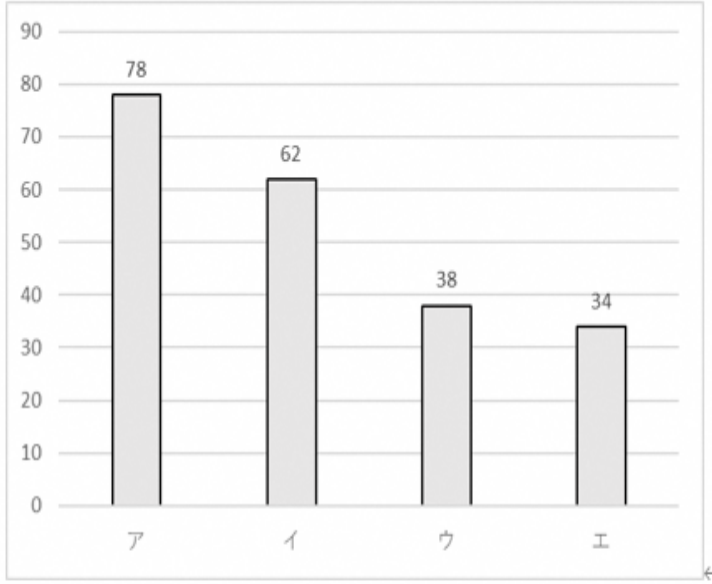
集団指導の効果 = 指導の浸透度と、感覚と実際のずれ

# プランニングシート

## 目標設定

### 1 調査結果 (学年別棒グラフなどを貼る)

### 調査結果



ア  学校が楽しい

イ  みんなで何かをするのは楽しい

ウ  授業に主体的に取り組んでいる

エ  授業がよくわかる

### 分析

### 2 課題分析 (1の調査結果から分かることだけに絞る)

- ・一定数の生徒が「学校が楽しい」と感じている。
- ・「学校が楽しい」と感じている生徒が一定数いるが、イにおける割合はアより低い。
- ・ウ、エを見ると、学習に抵抗を感じている生徒が全体の約3分の2程度いる。

### 3 目標設定 (2を受けて見直した取組の概要と、その結果到達するであろう見積もり数値を設定)

- ・ア「学校が楽しい」とイ「みんなで何かをするのは楽しい」を維持する。
- 学校行事等を工夫し、所属館を高め、よい姿は積極的に認めていく。また、仲間と関わる機会を設ける。
- ・ウ「授業に主体的に取り組んでいる」とエ「授業がよくわかる」を45%以上にする。
- 授業研究を進めたり休み時間や短学活等を活用したりしていく。

### 4 目標達成に向けて4~9月に重点・強化する内容

### 重点・強化する内容

- ・修学旅行に向けた係会などで達成感をもたせるため、自分たちで考える機会を設ける。
- ・蒼波祭に向けた準備の中でよい姿を見つけ、認めていく。
- ・学活等で仲間と関わる機会を設定するために、掲示物をつくったり話し合いなどをしたりする。
- ・短学活で1分間スピーチを取り入れ、仲間の話を聞き合う。
- ・授業中、分からないことを聞きやすい雰囲気づくりをする。
- ・テストに向けて、昼休みや短学活で学習の時間を設ける。





# プランニングシート（PDCAシート）

- ① チームの効果を最大限に生かすため、全ての教職員で話し合う。
- ② 意識調査の意味を理解し、話し合いをすれば教職員の共通理解が図られる。
- ③ シート作成は、結果として教職員の負担軽減につながる。

すべての子どもの  
「心の居場所」となる学校

### 教職員が

子どもが安心できる、自己  
存在感や充実感を感じられ  
る場所を提供する。

【安心安全な学校づくり】

すべての子どもの  
「絆づくりの場」となる学校

### 児童生徒が

主体的に取り組む活動を通  
し、自らが「絆」を感じ取り、紡  
いでいく。

【場と機会の設定】

すべての教職員が、「居場所づくり」「絆づくり」をキーワードに、「未然防止」を意識していく

# 生徒指導の3機能

すべての子どもの  
「心の居場所」となる学校

=

自己存在感 を与える

すべての子どもの  
「絆づくりの場」となる学校

=

共感的な人間関係 を育成

学校教育目標  
「自分から」

=

自己決定の場 を与える

オ 叩かれたり、けられたり、強く  
押されたりした(暴力を受けた)

カ 暴力ではないが、いじわるをさ  
れたり、イヤな思いをさせられた

キ 叩いたり、けったり、強く押し  
たりした(暴力をふるった)

ク 暴力ではないが、いじわるをさ  
れたり、イヤな思いをさせた

授業や行事等に取り組んだことが  
いじめの減少につながったかどうか  
判断するための指標



魅力ある学校づくりの取組は不登校の新規数抑制だけ  
でなくいじめ・問題行動等の未然防止にも成果を上げ  
る。

# 具体的な 田子浦中学校の「仕掛け」

I 特別活動

II 研修

III 生徒指導

IV 教育課程の見直し

V 環境づくりの工夫

# I 特活部の取り組み

## 蒼波祭



# 1 蒼波祭が生まれた経緯

コロナを逆手に取り

コロナだからできない → コロナでもできる → コロナだからできる

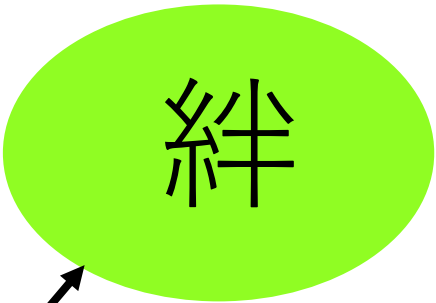
「生徒」が主語 「教員」は支える

一人一人が役割を持って作り上げる

すべての生徒が参加し達成感を得る

# 2 蒼波祭の組織

## 式典部門



従来の活動の中でこの2つを意識・意味付ける

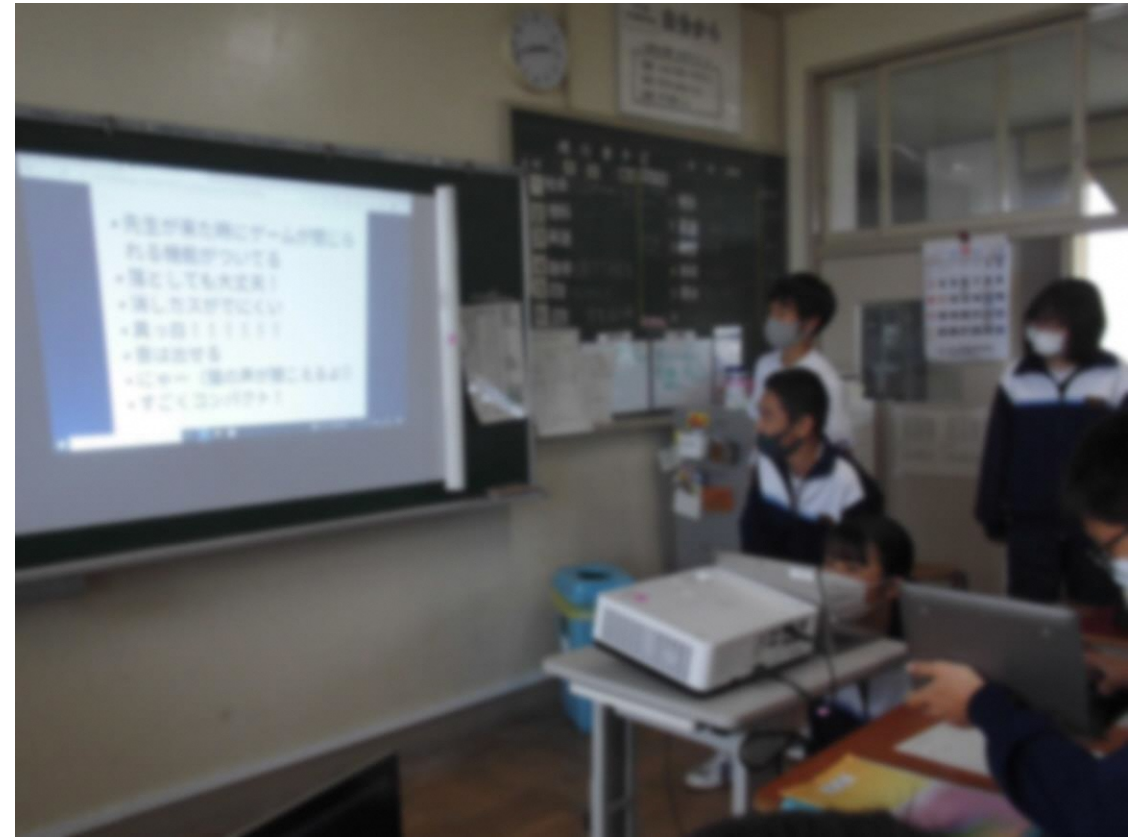




# 競争部門

居場所

絆



# 文化部門

居場所

絆



# 挑戦部門

居場所

絆

## 解体されたエコキャップアートはその後

エコキャップ受領書


令和4年10月31日

富士市立田子浦中学校 様

この度は、エコキャップ収集活動にご協力頂きありがとうございます。  
エコキャップは下記の通り受領しましたのでご報告致します。

受取日	数量	個数
10月31日	102kg	43,860個
ワクチン人数		25.50人分
合計		43,860個

1kgを430個として計算しています。  
エコキャップは1キロ5円となり、1人分のワクチンは20円です。



社会福祉法人  
富士市社会福祉協議会  
ボランティアセンター  
Tel 0545-64-7100 Fax 0545-64-9040  
Email vc@fujishishakyo.com



## 2. 蒼波祭の組織

居場所

絆

### 環境部門



# Ⅰ 特活部の取り組み

## 小中交流会

居場所

絆



- 中 1 ギャップ解消に向けてののりしろづくり
- 児童会・生徒会による情報交換会

# 小中合同挨拶運動

居場所

絆



児童会と生徒会で交流して実施し、子供同士で様子をつかむことで、お互いの安心感をつくっていきける

## II 研修部の取り組み

3人～4人の  
グループ

困っていたら  
助ける

困った時は  
協力する

居場所

絆



# 「机」の工夫

居場所



中央を空ける  
物を置かない

机はピッタリつける

道具は外側に置く



# なぜグループか…グループの良いところ

①人と関わる力がつく

②「わからないから  
やれない」がなくなる

③取り残される子がいない



居場所

絆

# 安心して話せるチームになろう

## 安心スパイラル

<ul style="list-style-type: none"> <li>・優しく伝える</li> <li>・暖かく聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いてくれた！嬉しい！</li> <li>・伝えてくれた！嬉しい！</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え方レベルUP！</li> <li>・聴き方レベルUP！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また伝えよう！</li> <li>・また聴こう！</li> </ul>

## 不安スパイラル

<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑に伝える</li> <li>・冷たく聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いてくれない…</li> <li>・伝えてくれない…</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう伝えないにしよう…</li> <li>・もう聴かないにしよう…</li> </ul>	

## 暖かく聴こう

- 反応しよう
  - ・「うんうん」「あー！」「なるほど」
  - ・「えっ？」「なんで？」「どういうこと？」
  - ・うなずく、首をかしげる、メモする
- よく聴こう
  - ・話している人を見よう
  - ・最後まで聴こう
  - ・自分の考えと比べながら聴こう

## 優しく伝えよう

- 聴きやすく話そう
  - ・場にあった声の大きさと話そう
  - ・伝える相手を見て話そう
- 伝わるように話そう
  - ・仲間の反応を確かめながら伝えよう
  - ・わかるまで粘り強く伝えよう
  - ・図、ジェスチャー、例えや経験を活用しよう
  - ・根拠を示して話そう

## □ 「聴く」と「伝える」をつなげよう

- ・聴いてわからなかったことを、訊こう
- ・仲間の考えにつなげて、自分の考えを伝えよう

## 小学校でやってきたこと

	聴く	伝える
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なるほど」「そうそう」と受け止めながら聴こう</li> <li>・「それでいいのかな？」「どうして？」と考えながら聴こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の反応を確かめながら伝えよう</li> <li>・図や表、ジェスチャー、例えや自分の経験などを活用して伝えよう</li> <li>・学習のふりかえりをキーワードを使って書こう</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えをもう一度言えるように聴こう</li> <li>・自分の考えと比べながら聴こう</li> <li>・聴いたこと、自分の思いに合わせて反応しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の反応を確かめながら伝えよう</li> <li>・友達の考えにつなげて自分の考えを伝えよう</li> <li>・学習のふりかえりに、友達の名前を入れながら書こう</li> </ul>
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はんのうしながらきこう</li> <li>・さいごまできこう</li> <li>・はなす人のほうを見てきこう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結ろん→理由のじゆんにつたえよう</li> <li>・場に合った声の大きさではなそう</li> <li>・伝えるあい手を見てはなそう</li> </ul>

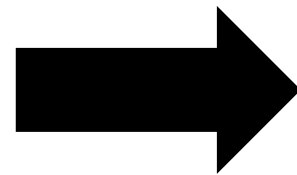
## 不安スパイラル

- ・雑に伝える
- ・冷たく聴く

- ・聴いてくれない…
- ・伝えてくれない…



- ・もう伝えないに  
しよ…
- ・もう聴かないに  
しよ…



## 安心スパイラル

- ・優しく伝える
- ・暖かく聴く

- ・聴いてくれた！  
嬉しい！
- ・伝えてくれた！  
嬉しい！



- ・伝え方  
レベルUP！
- ・聴き方  
レベルUP！

- ・また伝えよう！
- ・また聴こう！

# 小学校での「学習ものさし」を受けて

	聴く	伝える
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はんのうしながらきこう</li> <li>・さいごまできこう</li> <li>・はなす人のほうを見てきこう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結ろん→理由のじゆんにつたえよう</li> <li>・場に合った声の大きさはなそう</li> <li>・伝えるあい手を見てはなそう</li> </ul>

	聴く	伝える
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えをもう一度言えるように聴こう</li> <li>・自分の考えと比べながら聴こう</li> <li>・聴いたことと、自分の思いに合わせて反応しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の反応を確かめながら伝えよう</li> <li>・友達の考えにつなげて自分の考えを伝えよう</li> <li>・学習のふりかえりに、友達の名前を入れながら書こう</li> </ul>

小学校でやってきたこと		
	聴く	伝える
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なるほど」「そうそう」と受け止めながら聴こう</li> <li>・「それでいいのかな?」「どうして?」と考えながら聴こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の反応を確かめながら伝えよう</li> <li>・図や表、ジェスチャー、例えや自分の経験などを活用して伝えよう</li> <li>・学習のふりかえりをキーワードを使って書こう</li> </ul>

小学校で積み重ねて指導を、中学校も引き継ぎ、ステップアップする


# 安心して話せるチームになろう

## 暖かく聴こう

- 反応しよう
  - ・「うんうん」「あー！」
  - ・「なるほど」
  - ・「えっ?」「なんで?」
  - ・「どういうこと?」
  - ・うなづく、首をかしげる、メモする
- よく聴こう
  - ・話している人を見よう
  - ・最後まで聴こう
  - ・自分の考えと比べながら聴こう


## 優しく伝えよう

- 聴きやすく話そう
  - ・場にあった声の大きさと話そう
  - ・伝える相手を見て話そう
- 伝わるように話そう
  - ・仲間の反応を確かめながら伝えよう
  - ・わかるまで粘り強く伝えよう
  - ・図、ジェスチャー、例えや経験を活用しよう
  - ・根拠を示して話そう



### ★「聴く」と「伝える」をつなげよう

- ・聴いてわからなかったことを、訊こう
- ・仲間の考えにつなげて、自分の考えを伝えよう



中学校での取組

# II 研修部の取り組み

## 安心して話せるチームになろう

### 安心スパイラル

<ul style="list-style-type: none"> <li>・優しく伝える</li> <li>・暖かく聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いてくれた！嬉しい！</li> <li>・伝えてくれた！嬉しい！</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え方レベルUP！</li> <li>・聴き方レベルUP！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また伝えよう！</li> <li>・また聴こう！</li> </ul>

安心

### 不安スパイラル

<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑に伝える</li> <li>・冷たく聴く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いてくれない…</li> <li>・伝えてくれない…</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう伝えないにしよう…</li> <li>・もう聴かないにしよう…</li> </ul>	

### 暖かく聴こう

- 反応しよう
  - ・「うんうん」「あー！」「なるほど」
  - ・「えっ？」「なんで？」「どういうこと？」
  - ・うなずく、首をかしげる、メモする
- よく聴こう
  - ・話している人を見よう
  - ・最後まで聴こう
  - ・自分の考えと比べながら聴こう

### 優しく伝えよう

- 聴きやすく話そう
  - ・場にあった声の大きさで話そう
  - ・伝える相手を見て話そう
- 伝わるように話そう
  - ・仲間の反応を確かめながら伝えよう
  - ・わかるまで粘り強く伝えよう
  - ・図、ジェスチャー、例えや経験を活用しよう
  - ・根拠を示して話そう

### □ 「聴く」と「伝える」をつなげよう

- ・聴いてわからなかったことを、訊こう
- ・仲間の考えにつなげて、自分の考えを伝えよう

### 小学校でやってきたこと

	聴く	伝える
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なるほど」「そうそう」と受け止めながら聴こう</li> <li>・「それでいいのかな？」「どうして？」と考えながら聴こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の反応を確かめながら伝えよう</li> <li>・図や表、ジェスチャー、例えや自分の経験などを活用して伝えよう</li> <li>・学習のふりかえりをキーワードを使って書こう</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えをもう一度言えるように聴こう</li> <li>・自分の考えと比べながら聴こう</li> <li>・聴いたこと、自分の思いに合わせて反応しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の反応を確かめながら伝えよう</li> <li>・友達の考えにつなげて自分の考えを伝えよう</li> <li>・学習のふりかえりに、友達の名前を入れながら書こう</li> </ul>
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はんのうしながらきこう</li> <li>・さいごまできこう</li> <li>・はなす人のほうを見てきこう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結ろん→理由のじゆんにつたえよう</li> <li>・場に合った声の大きさはなそう</li> <li>・伝えるあい手を見てはなそう</li> </ul>

居場所

絆

# 学習指導要領

《これまで》

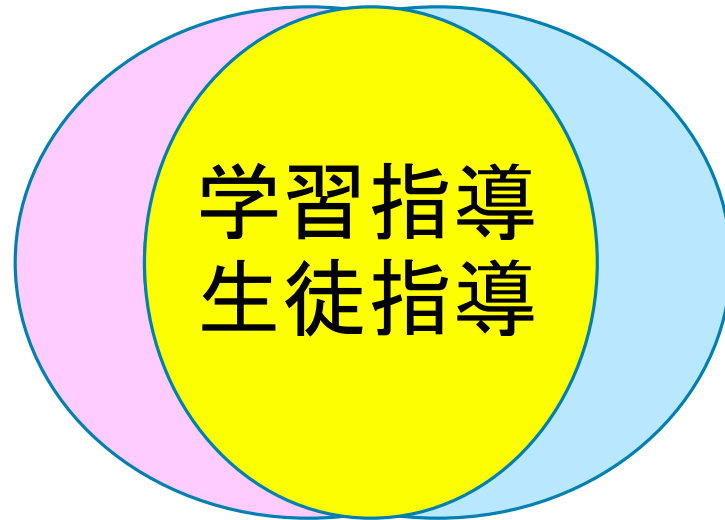
学習指導と生徒指導は学校教育において共に重要な意義をもつ

《現行》

両者は相互に深く関わるものであり、相互に関連付けながら、その一層の充実を図っていくことが必要

## 授業と生徒指導の一体化

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び



自己存在感を与える  
共感的な人間関係を育む  
自己決定の場を与える

# 授業案の工夫

授業案にも、生徒指導の三機能を入れて、**授業と生徒指導の一体化を意識**している

## 生徒指導の視点

- (A) 自己存在感を与える
- (B) 共感的な人間関係をはぐくむ
- (C) 自己決定の場を与える

◎ 6人の具体的な職業と住んでいる地域を書いたカードを用意し、黒板とタブレットに提示する。(C)

段階	教師の働きかけと予想される生徒のあらわれ	形態	教師の支援及び評価等		
つかむ	<p>T 弾丸インプットをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで問題を出し合う活動をする。(A)(B)(C)</li> </ul> <p>T 本州四国連絡橋を確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つあるんだ。・本州と四国は橋でつながってるんだ。</li> </ul> <p>T 次の6人のうち、橋ができて、得した人と損した人は誰だろう？</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎プロジェクターを用意</li> <li>◎地図と写真で確認する。</li> <li>◎タブレットとプロジェクターに課題を提示して、課題を理解させる</li> </ul>		
深める	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デパートの人はお客さんが増えるんじゃない？</li> <li>・でも香川の人だよ？逆に岡山に行っちゃうんじゃない？</li> <li>・岡山って都会なの？</li> <li>・おしゃれ女子高生は絶対得だよ。だって広島に遊びに行けるじゃん。</li> <li>・なるほど、そういうことね。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェリーの社長はどうだろう。</li> <li>・教科書にフェリーの利用が減少したって書いてある！</li> <li>・確かに橋があれば船は使わないよね。</li> <li>・鉄道会社？橋と関係ある？</li> <li>・どうだろう。車で移動できるから電車を使わなくなった…？</li> <li>・よくわからないな。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デパートの人はお客さんが増えるんじゃない？</li> <li>・でも香川の人だよ？逆に岡山に行っちゃうんじゃない？</li> <li>・岡山って都会なの？</li> <li>・おしゃれ女子高生は絶対得だよ。だって広島に遊びに行けるじゃん。</li> <li>・なるほど、そういうことね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェリーの社長はどうだろう。</li> <li>・教科書にフェリーの利用が減少したって書いてある！</li> <li>・確かに橋があれば船は使わないよね。</li> <li>・鉄道会社？橋と関係ある？</li> <li>・どうだろう。車で移動できるから電車を使わなくなった…？</li> <li>・よくわからないな。</li> </ul>	グループ(B)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ <u>6人の具体的な職業と住んでいる地域を書いたカードを用意し、黒板とタブレットに提示する。(C)</u></li> <li>※曖昧な判断や、根拠なく判断をしている班には、「なぜそう考えたの？」「そうなの？」と問いかける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デパートの人はお客さんが増えるんじゃない？</li> <li>・でも香川の人だよ？逆に岡山に行っちゃうんじゃない？</li> <li>・岡山って都会なの？</li> <li>・おしゃれ女子高生は絶対得だよ。だって広島に遊びに行けるじゃん。</li> <li>・なるほど、そういうことね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェリーの社長はどうだろう。</li> <li>・教科書にフェリーの利用が減少したって書いてある！</li> <li>・確かに橋があれば船は使わないよね。</li> <li>・鉄道会社？橋と関係ある？</li> <li>・どうだろう。車で移動できるから電車を使わなくなった…？</li> <li>・よくわからないな。</li> </ul>				
まとめる	<p>T タブレットにまとめて共有しましょう。</p> <table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに私でも広島デパートに行くや。田舎のデパートは損するかも。</li> <li>・女子高生の動きとつながってるね。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だいたい皆と一緒に。良かった。</li> <li>・でも鉄道会社は意見が分かれているね。</li> <li>・え？橋って電車も渡れるんだ。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>T 今日わかったことをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋ができると、おしゃれな人とかは便利になるけど、フェリーの社長とか損する人もいる。</li> <li>・交通網が発達すると、都会はより人が集まり、田舎はもっと人がいなくなる。</li> <li>・橋で過疎過密が進行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに私でも広島デパートに行くや。田舎のデパートは損するかも。</li> <li>・女子高生の動きとつながってるね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だいたい皆と一緒に。良かった。</li> <li>・でも鉄道会社は意見が分かれているね。</li> <li>・え？橋って電車も渡れるんだ。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>※「橋ができると便利！」など、一面的にしか考えられていない生徒には、損する人がいないか考えるよう促す。</li> <li>◎A～Fの人物について、ロイノートでそれぞれカードにまとめ、提出させる。</li> <li>◎ある程度の班が提出したら、他の班が提出したのも見られるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに私でも広島デパートに行くや。田舎のデパートは損するかも。</li> <li>・女子高生の動きとつながってるね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だいたい皆と一緒に。良かった。</li> <li>・でも鉄道会社は意見が分かれているね。</li> <li>・え？橋って電車も渡れるんだ。</li> </ul>				



## III 生徒指導部

・寄り添う指導の統一

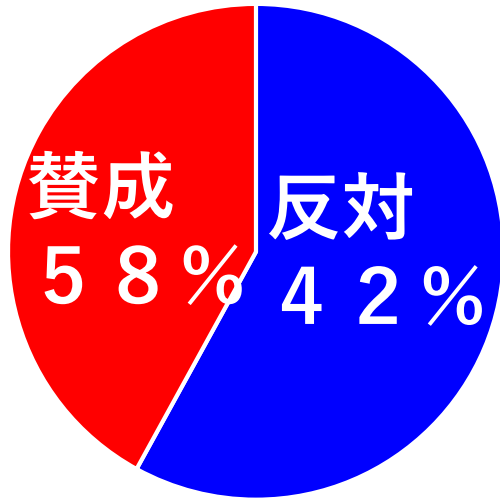
・校則の見直し

居場所

居場所

絆

# 校則の見直し



■ 賛成 ■ 反対

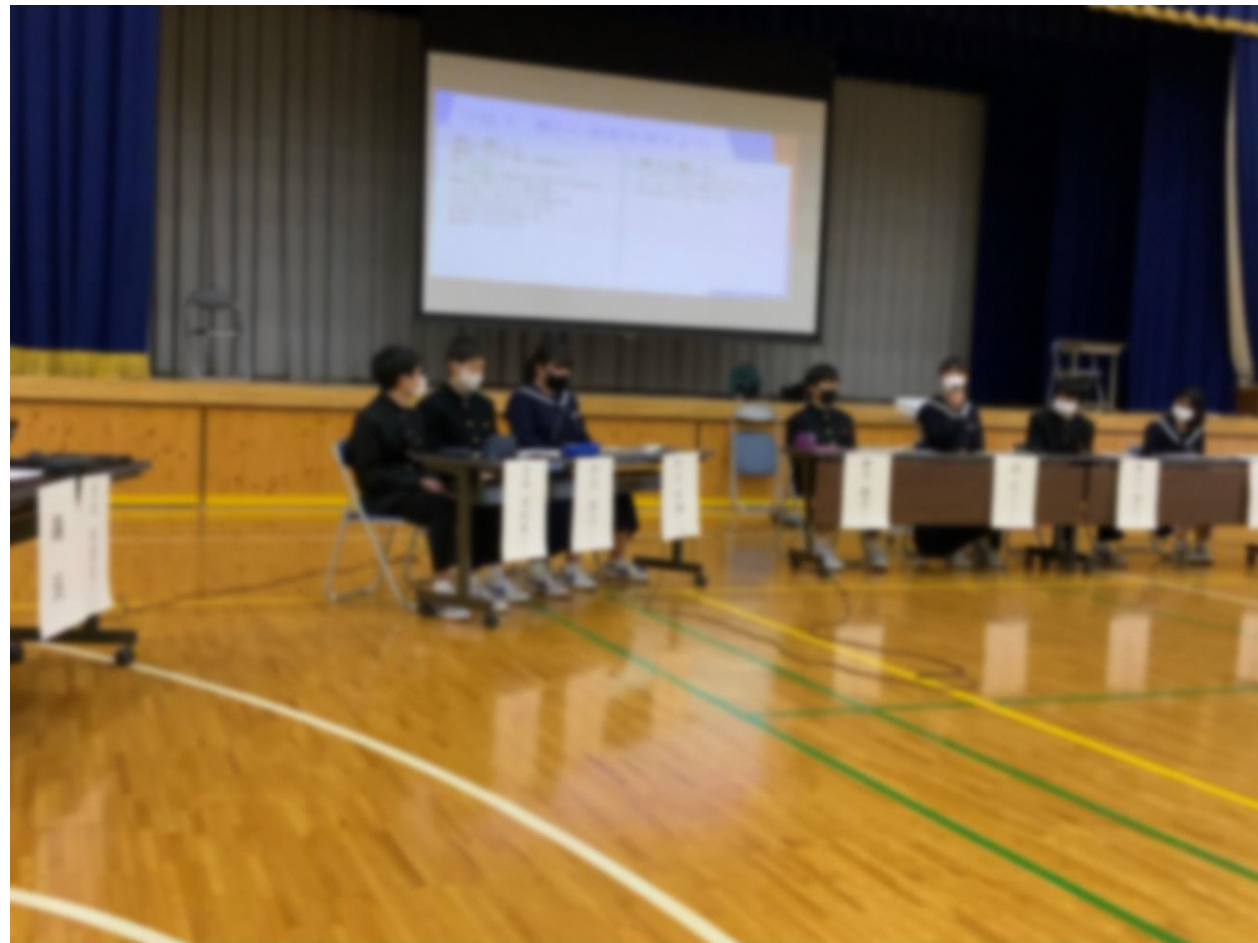
靴の自由化について、  
どう思いますか？

賛成 <sup>←</sup>	反対 <sup>←</sup>
<ul style="list-style-type: none"><li>・白だと汚れが目立つ。<sup>←</sup></li><li>・学校用と日常用で使い分けるのは大変。<sup>←</sup></li><li>・新生入への経済負担を減らすため。<sup>←</sup></li><li>・白いものにこだわる必要がないため<sup>←</sup></li><li>・靴や靴下の色で生活に支障がないから。<sup>←</sup></li><li>・家で使っているものを使えるのはすごく楽<sup>←</sup></li><li>・白がいいと思う人は自由化になっても白のままがいいと思う。<sup>←</sup></li><li>・いろんな意見を聞いて変えたいと思ったから。<sup>←</sup></li><li>・<u>これからは個人の個性、考え方が重視される時代なので流されるのではなく一人一人の考えで歩いていく力が必要。</u><sup>←</sup></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・今までのままで良い。メリットが見つからない。<sup>←</sup></li><li>・3年間不便だと思ったことがないから。<sup>←</sup></li><li>・おしゃれする場所ではないから<sup>←</sup></li><li>・<u>伝統を壊してしまう。</u><sup>←</sup></li><li>・<u>集団の気持ちが薄れる。</u><sup>←</sup></li><li>・わざわざ変えるところから校則に反しているか分からなくなるから。<sup>←</sup></li><li>・個人の利益のためだったら変える必要がない。<sup>←</sup></li><li>・争いごとの種になる。<sup>←</sup></li><li>・制服はそろっているのに靴や靴下がカラフルでまとまりがないのはいいいイメージとは言えないから。<sup>←</sup></li><li>・中学生らしい。<sup>←</sup></li></ul>

# 靴の自由化

居場所

絆



生徒会選挙に「校則の見直し」という公約を掲げた生徒が当選し、そこから、道徳⇒学級会⇒学年パネルディスカッション⇒全校パネルディスカッションを経て靴の自由化となった。

# 話合いの概要

- 「どういものが学校にふさわしいのか自分で考えられるようになりたい。」
- 「ルールに縛られるだけでは今後の社会を生き抜いていけない。」

**生徒の手による校則の見直し（子ども基本法の理念にのっとる）**



生徒指導提要にも

現在の田子浦中の靴箱の様子

# 川生徒指導部

居場所

## スケジュール帳の使用

生徒は常に手帳を持ち歩きメモを取ることで

- ①先を見通して行動する
- ②自分で調整する力
- ③目標を立て、振り返り、次に生かしていく力がついた。

The image shows a handwritten student schedule notebook. It has columns for dates 15, 16, and 17. The notebook is filled with handwritten notes, including activities like '朝早く登校' (wake up early and go to school), '部活練習試合' (club practice match), and '勉強' (study). There are also notes about tests and assignments, such as '国語漢字テスト' (Japanese Kanji Test) and '提出物を期限内に忘れずに提出することができた' (I was able to submit my assignments on time without forgetting). The notebook is dated 'week 15 2022'.

この手帳は年度末に、担任がコメントを入れて返却

そう談室

居場所

教務主任（魅力担当）が相談室を開設

「お昼のそう談室」（生徒対象）

「先生方の教育そう談」（毎週火曜の放課後）

相談だけでなく 雑談も…

**タブレット端末(Forms)からの相談も受け付けている**

※富士市では5年2月1日より「ほっとデジタル相談・ふじ」の運用開始

## IV教育課程の見直し

### 4月の完全下校の見直し

- ・例年4月の部活動終了17:00を16:30に

環境の変化に対応するため

居場所

### 登校時刻の見直し

- ・登校時刻を8:05～8:15に

絆

働き方改革もあるが…

- ・担任が教室で生徒の登校を見届けられる(下校も見届けている)
- ・教室に行く前に職員室で簡単な打ち合わせ(学年)ができる

# 〇〇の日の導入

居場所

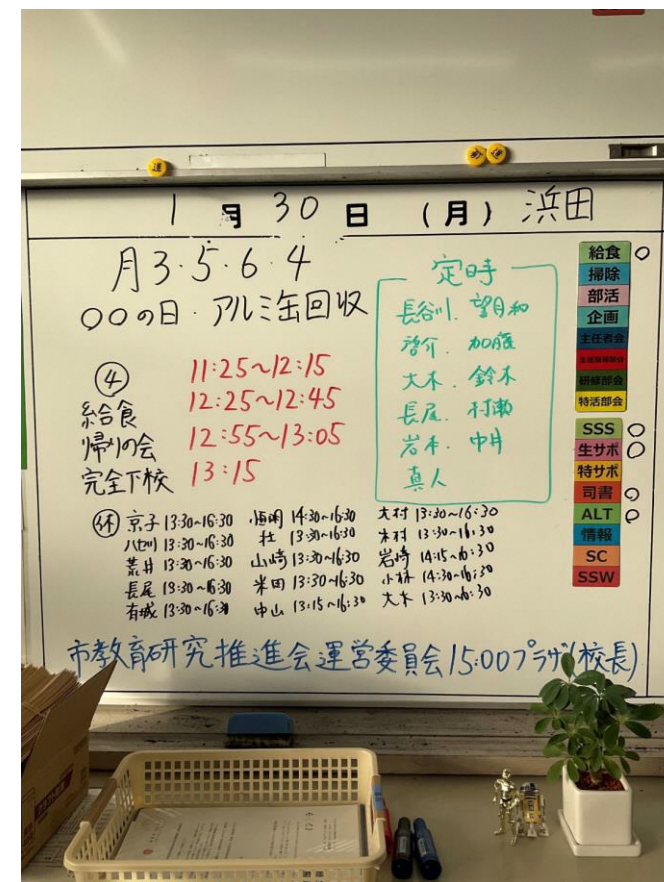
絆

連休明け。半日だけなら頑張れるのでは…

- 最初は不登校対策。月曜日に月 1 回設定。
- 会議は一切入れない。
- 教職員も自己研鑽の時間に。
- 自由な時間を計画的に過ごす。(先を見通す力の育成)
- 生徒はスケジュール手帳に「今日は〇〇の日にする」と記載



遊ぶ 野球をする 多分勉強… がちで勉強 寝る 音楽を聴く  
お手伝い ゲーム 好きなアーティストの曲を聴く 読書 等





# 教職員の部活動

## メンター研



- 「テーピング講座」
- 「個別最適な学びと共同的な学び」
- 「魅力ある学校づくりを語る」
- 「そうだ指導案を作ろう」
- 「趣味は教材研究です」
- 「簡単に扱えるFormsのつかい方」

市内各学校にもオンライン  
で視聴できるようにした

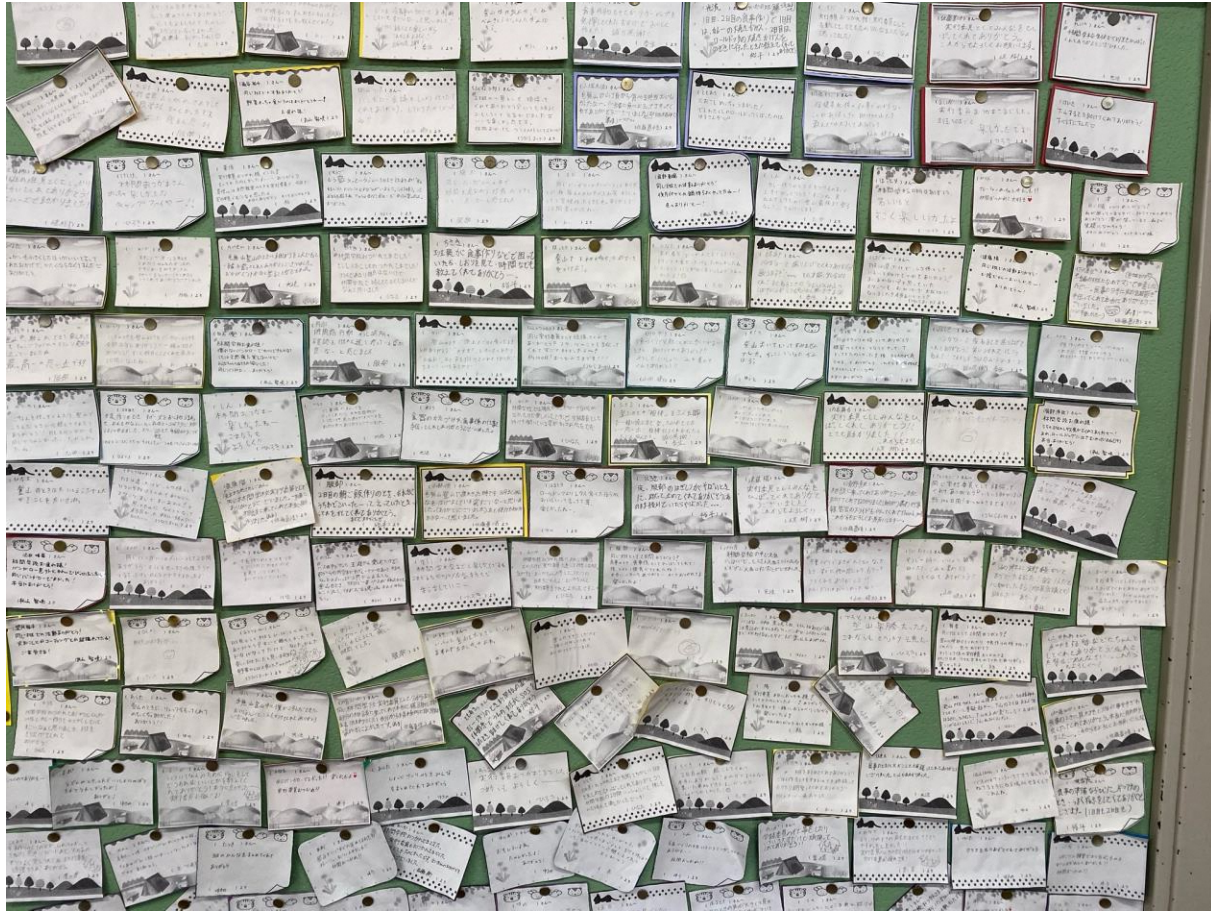


教職員の

絆

# V学校の環境づくりの工夫

よいところを見つけ



絆

居場所

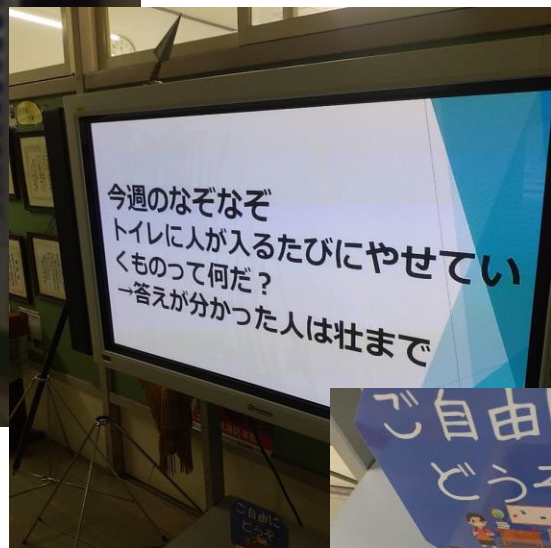
絆

子供のアイデアで  
作成された掲示物



# 情報発信のツール

## 電子黒板の活用

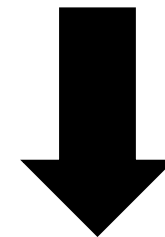


居場所

絆

今は

- 授業 部活動 行事の様子
- なぞなぞ



いずれは

- 生徒が管理する情報発信のツールへ
- 各階に設置予定

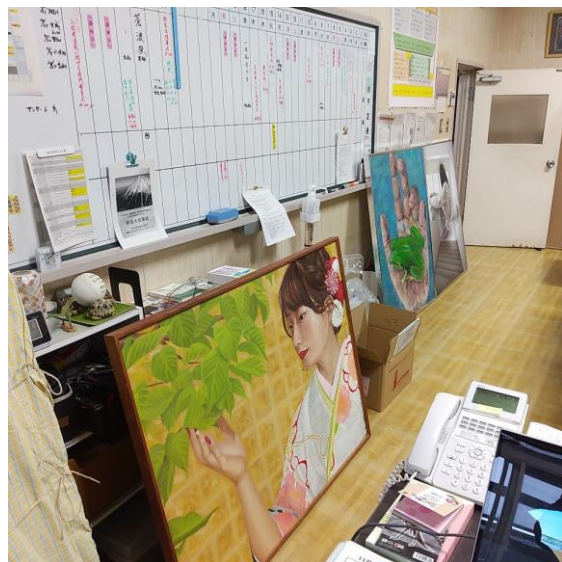
# その他の取り組み

## 外部との連携

絆

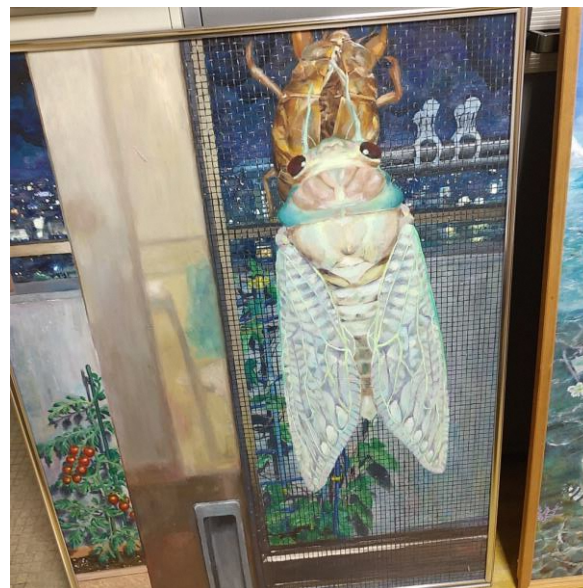
### I 高校との連携

「蒼波祭」展示部門と  
高校美術部のコラボ



II 高校職員への積極的な授業公開

III 総合的な学習と富士市立高校  
の探究コラボ



# 3年総合 自分と地域と未来をつなぐ

～田子浦地区・富士市の活性化 自分ができること～



- どうしたら人が集まる？
- 若者が地元に残るには？
- もっと有名になるには？
- 財政はどうしたら潤うのか？

## 地域創生

考え → 行動・創造し → 発信する

- 調べたことのまとめを発表するだけではない
- 求められるのは、新しいアイディア・企画

富士市立高校がやっている内容 ⇨ 連携

月	日	曜	時間	内 容	場所など	備考
6	9	木	⑤	オリエンテーション・ウェビング	体育館	
	16	木	⑤	テーマ決定に向けた話し合い	教室	探究班発表
	23	木	⑤	市立高校中間発表視聴	教室	テーマは必ず決定する。
			⑥	テーマ決定・探究学習計画①		
	30	木	⑤	探究学習計画開始②	教室	
⑥			探究学習計画書提出	教室	計画書⇒担任	
7	7	木	⑤	探究学習①	教室	
	15	金	④	探究学習②	教室	面談期間
夏休み			6時間	夏休み中に行うこと「行動する」「創る」 ・実際に現地に行く・観察する・写真や動画を取る・作ったものを試す など… しっかり進めておくと、夏休み明けから発表に向けた準備ができる！ 計画的に進めておくと、11月テストや学調に向けて気持ち的なゆとりをもつてのぞめる！！		
9	8	木	⑤	中間発表準備	教室	⑥蒼波祭
	22	木	⑤	中間発表	各教室	⑥蒼波祭
	27	火	⑤	最終発表準備①②	教室	
⑥						
10	20	木	⑤	市立高校最終発表視聴	各教室	アーカイブ視聴
	24	月	⑤	最終発表準備③	教室	
11	1	火	⑤	最終発表準備④	教室	
	8	火	⑤	最終発表準備⑤	教室	
	11	金	⑤	最終発表準備⑥	教室	11月テスト
			⑥			
	17	木	⑤	最終発表準備⑦⑧	教室	
⑥			教室			
18	金	終日		各教室 体育館 教室	一日総合	

富士市立高校からアドバイザーとして2名来校

最終発表、振り返り

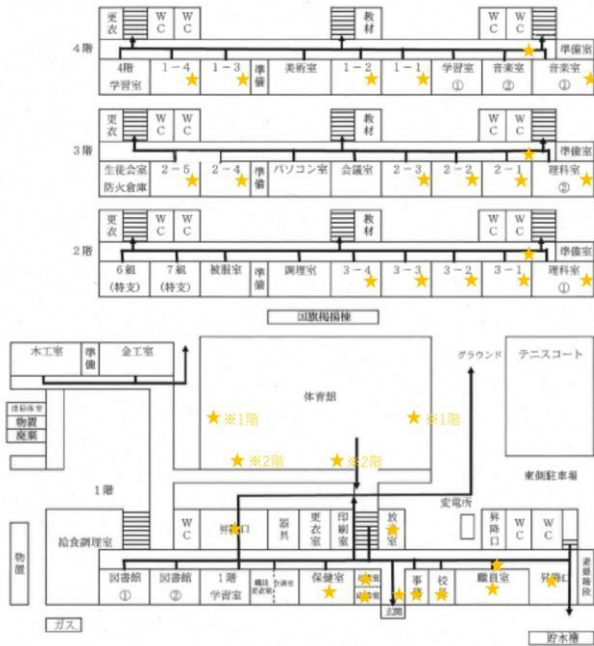
# 外部との連携

## Ⅱ 企業との連携

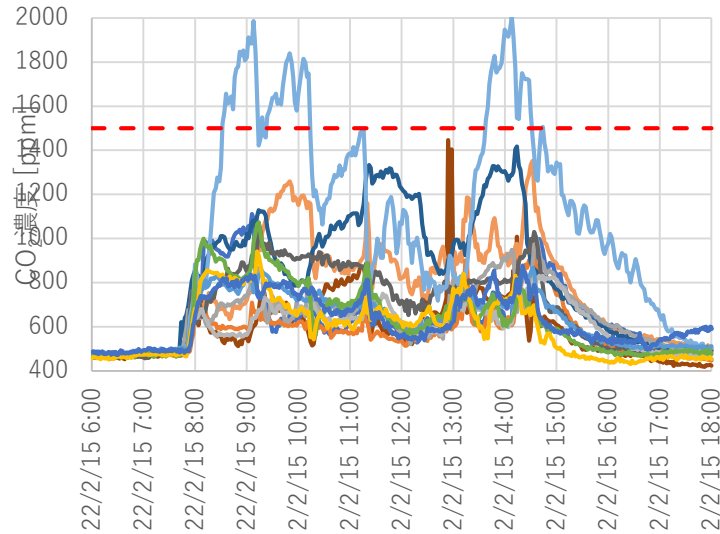
旭化成エンジニアリング株式会社との共同研究

### 全てのクラスにCO<sub>2</sub>センサーを配置

学校環境衛生基準である1500ppm以下のCO<sub>2</sub>濃度になるように換気の徹底を心がけた。

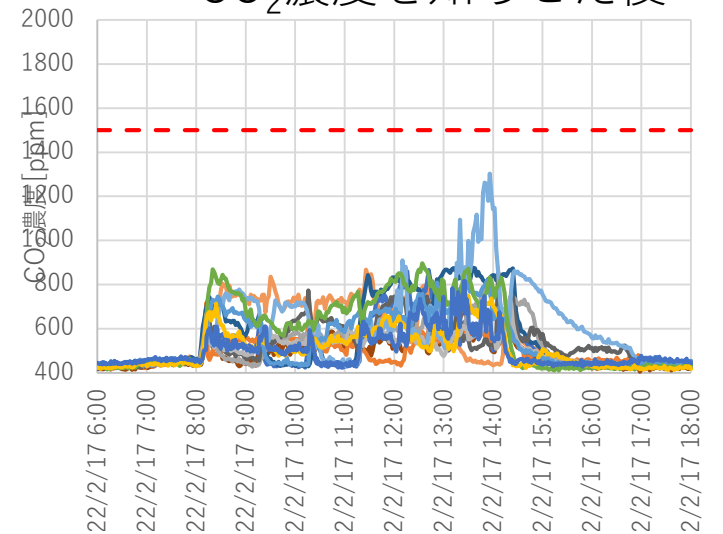


窓開けのみで対応時



各教室のCO<sub>2</sub>濃度情報をフィードバック

CO<sub>2</sub>濃度を知らせた後





# 今回3年生ファイナルプロジェクト 実行委員長に就任



学年集会でこの企画の説明と、  
スタッフの募集を呼び掛けまし  
た

<b>Final Project 2023</b>			
3年部教員	<b>実行委員会&amp;プロジェクトチーム</b>		
卒業式企画チーム	球技大会など思い出企画チーム	クリーン作戦チーム	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業式・歌の練習</li> <li>後輩へ感謝の思いを...</li> <li>クラスの仲間、先生たちへ感謝を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技大会</li> <li>蒼波祭文化の部みたいなレク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎全体</li> <li>教室</li> </ul>	
<p>メンバー：後期学級委員2名（男女1） +有志（指揮・伴奏者など） ○3送会：3月10日（金）と卒業式ま での練習の段取り メンバー選出後企画会議 活動内容※コロナ対応を考慮 ・帰りの会での練習計画・実践 ・卒業式の企画と卒業式練習の計画運営 ・教科担任へのメッセージ ・後輩への掲示物作り 自分たちで企画したものをできるだけ実 現してあげたい。 <b>★最高の卒業式にしよう！</b></p>	<p>メンバー：私立単願者+有志 3/9(木) 球技大会 4時間 +その他の企画 活動内容：コロナ対応を考慮 ・球技大会の企画 どんな種目、方法、ルール、審判は？ ・当日の試合進行・運営 ・その他の企画運営等 <b>★最後の思い出作りをしよう！</b></p>	<p>メンバー：私立単願者+有志 3/10（金）の大掃除の計画 ・活動内容※コロナ対応を考慮 どんな活動にするのか？ 2時間分の奉仕活動の計画、どこを何 できれいにする？ 当日の活動指示 <b>★お世話になった教室・場所すべ てをピカピカにしよう！</b></p>	
担当：荒井・小林・鈴木・（有城）	担当：長尾・浅倉+（荒井・有城）	担当：恒明・大村・望月和	
	<b>実行委員長</b>		
	<b>副実行委員長</b>		

# 川生徒指導部

ここまでの実践は89%の生徒への未然防止のために

→ ここからは11%の生徒への初期対応・自立支援として

## 問題解決型ケース会議

関西学院大学 馬場 幸子 編著  
「問題解決型ケース会議」活用ハンドブック

## 現場の声

- ① ケース会議を開いても、それぞれが勝手な事を話し、**意見の集約ができない。**
- ② 情報交換をするだけで、具体的に何をするのかが**決まらない。**
- ③ ケース会議の経験がなく、**忙しい**ので、会議開催の理解が得られない。

## 「問題解決型ケース会議」の約束

- ①参加者は 担任・元担任・主任・生徒指導主事  
養護教諭・サポート員・SSW・SC・外部機関 等
- ②会議参加者は必ず発言する（参加責任を果たす）
- ③他の人の意見を否定したり責めたりしない
- ④1つのステップごとに合意形成を果たしてから次のステップに進む

# 会議の進行の仕方

## ①問題

問題の程度・頻度を含めて具体的に発言する。

緊急性が高い  
周囲の生活に大きな影響  
支援すれば改善が見込める

## ③目標

2～3か月で変わってほしい姿を、具体的に肯定的な表現で考える。

- ①はじめの3ステップがとても大切。
- ②強みの確認が大切。

## ⑤支援方法

「誰が、いつ、どこで、どのくらいの頻度」で支援するのか具体的に決める。

現実的で、押しつけがましくないように多くの支援が得られるようにする

## ②長所・強み

支援で役立てられそうな本人の「強み」を探す。

支援のヒントを探るため肯定的な要素で話し合う

## ④背景要因

影響を与えている「背景要因」をさまざまな角度から検討する。

子供、担任、家庭を否定するのではなく、背景要因を探ることが大切です

## ⑥評価基準

評価方法や時期を決める。

- ①会議の報告を管理職にする。
- ②決まった日に「振り返り」を実施する。

- ① 教員が1人で抱え込まなくて済む。
- ② 校内の「チーム力」がアップする。
- ③ 教職員の協力体制が取りやすくなる。
- ④ 校内の支援体制が強化されます。
- ⑤ 子供の学校での適応は増し、負担感が減少。

## 先生たちの声

- みんながたくさんの意見を挙げてくれて嬉しかった。
- 別の見方ができて支援の参考になった。
- 生徒指導力がついた。
- 気持ちが楽になった。何よりストレス解消になった。

- ①ケース会議の大きな効果は、**教職員の子供の見方が変わる**こと。子供や家庭の責任にしていた意識が、子供や家庭に「**受容的**」になった。
- ②児童生徒に効果的な支援ができ、状況が好転しているケースが多くある。

以上で実践の発表は終わりになります

この指定で、何か特別なことに取り組んだという意識はほとんどない

大きな指定であったが、負担感はなかった

子供、教職員にとって、面白そうなこと、やってみたいことに挑戦しただけ

訪問された方がこうおっしゃってくれました

- ・ 私立中学校の香りがする  
(私立高校校長)
- ・ いい意味で小学校のようだ  
(他県指導主事)

子供も職員も変わった

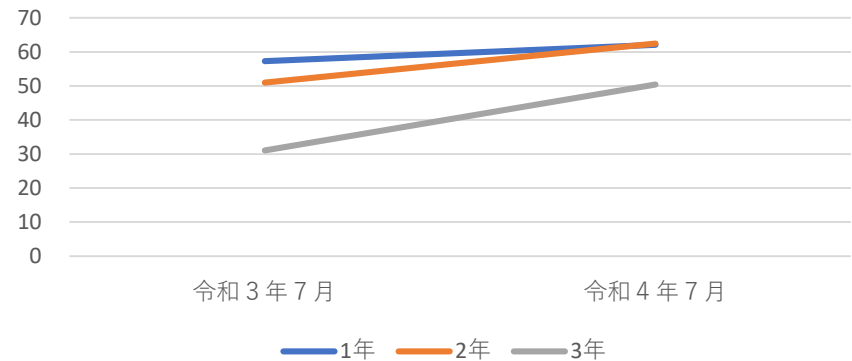
笑顔がある 表情がいい  
仲がいい 外れている子がいない  
学校生活を楽しんでいる  
教員と生徒の関係がいい

数値での結果は求めないと言っていたが…

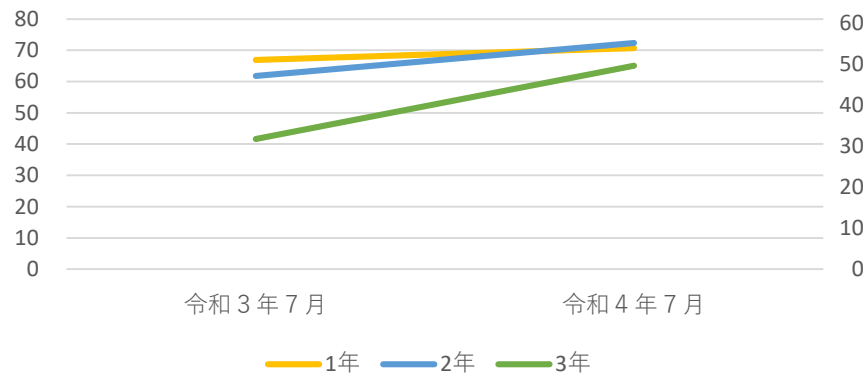


# 魅力アンケート 昨年7月と今年7月の比較

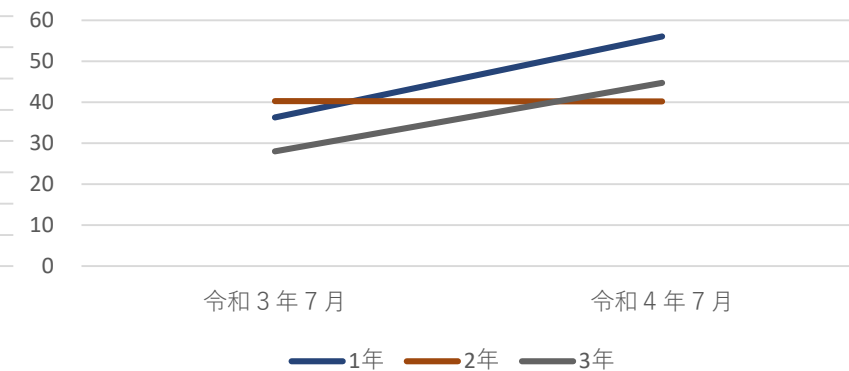
## 学校が楽しい



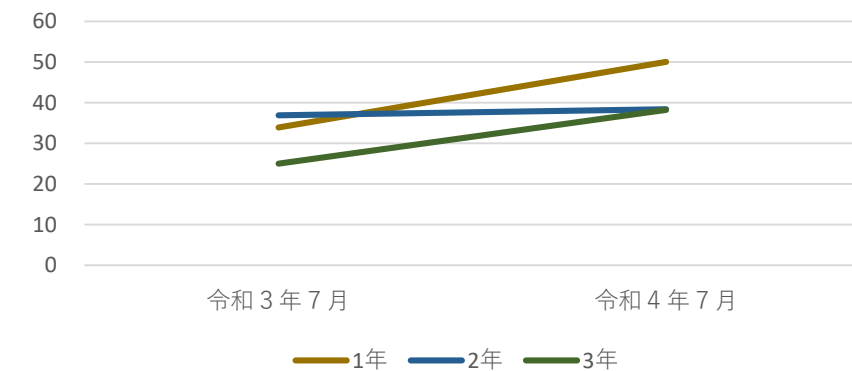
## みんなで何かをするのは楽しい



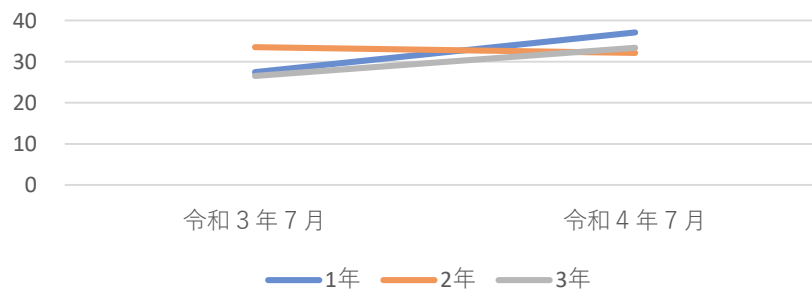
## 授業に主体的に取り組んでいる



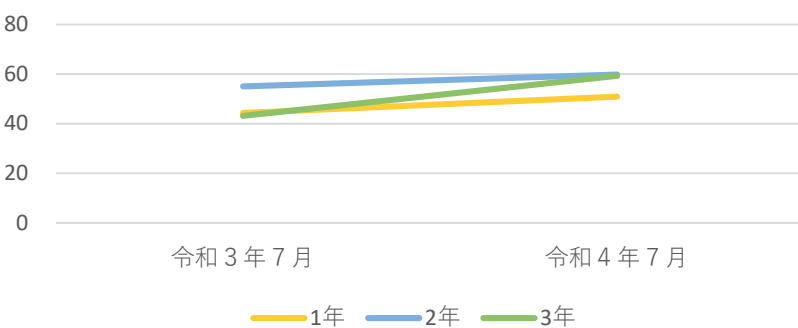
## 授業がよくわかる



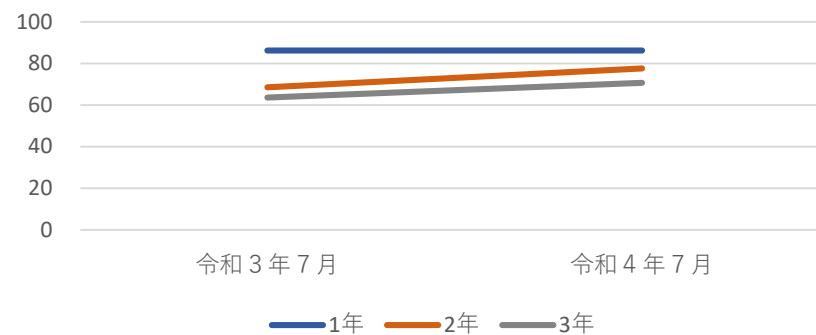
## 良いと思ったことを行動に移している



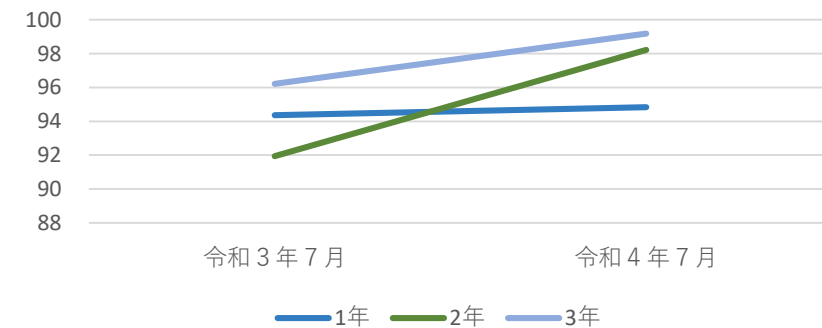
### 行事に意欲的に取り組んでいる



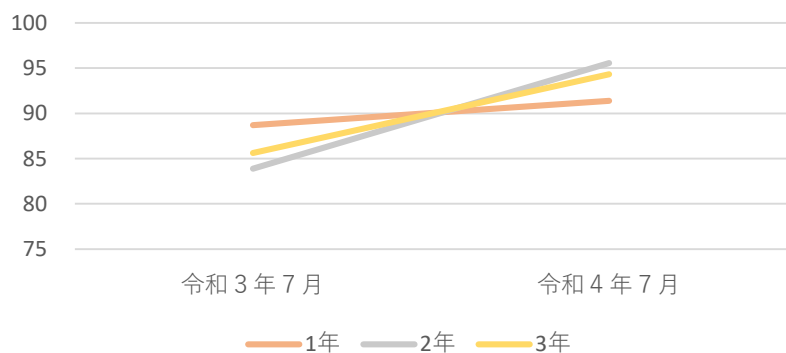
### 部活動に一生懸命取り組んでいる



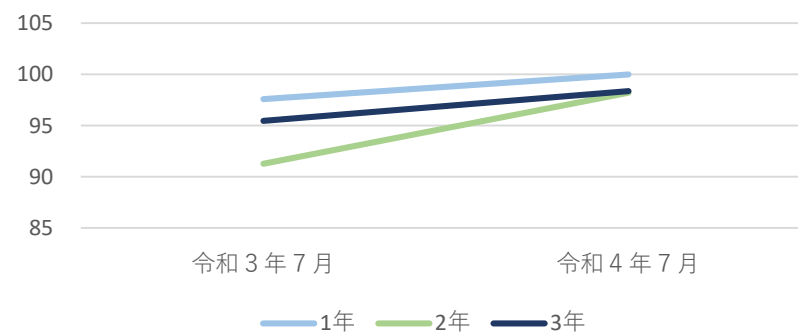
### 暴力を受けていない



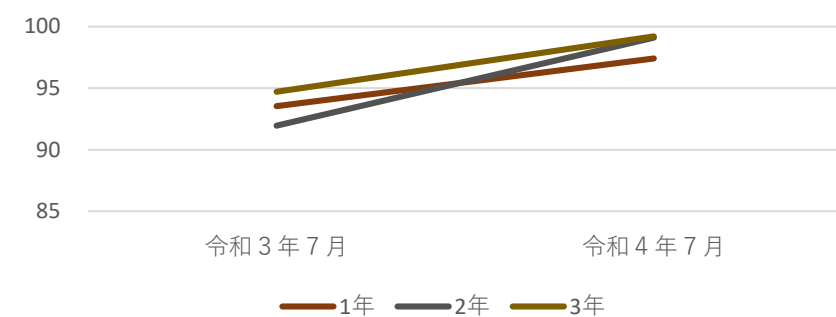
### 嫌な思いをしていない



### 暴力をふるっていない

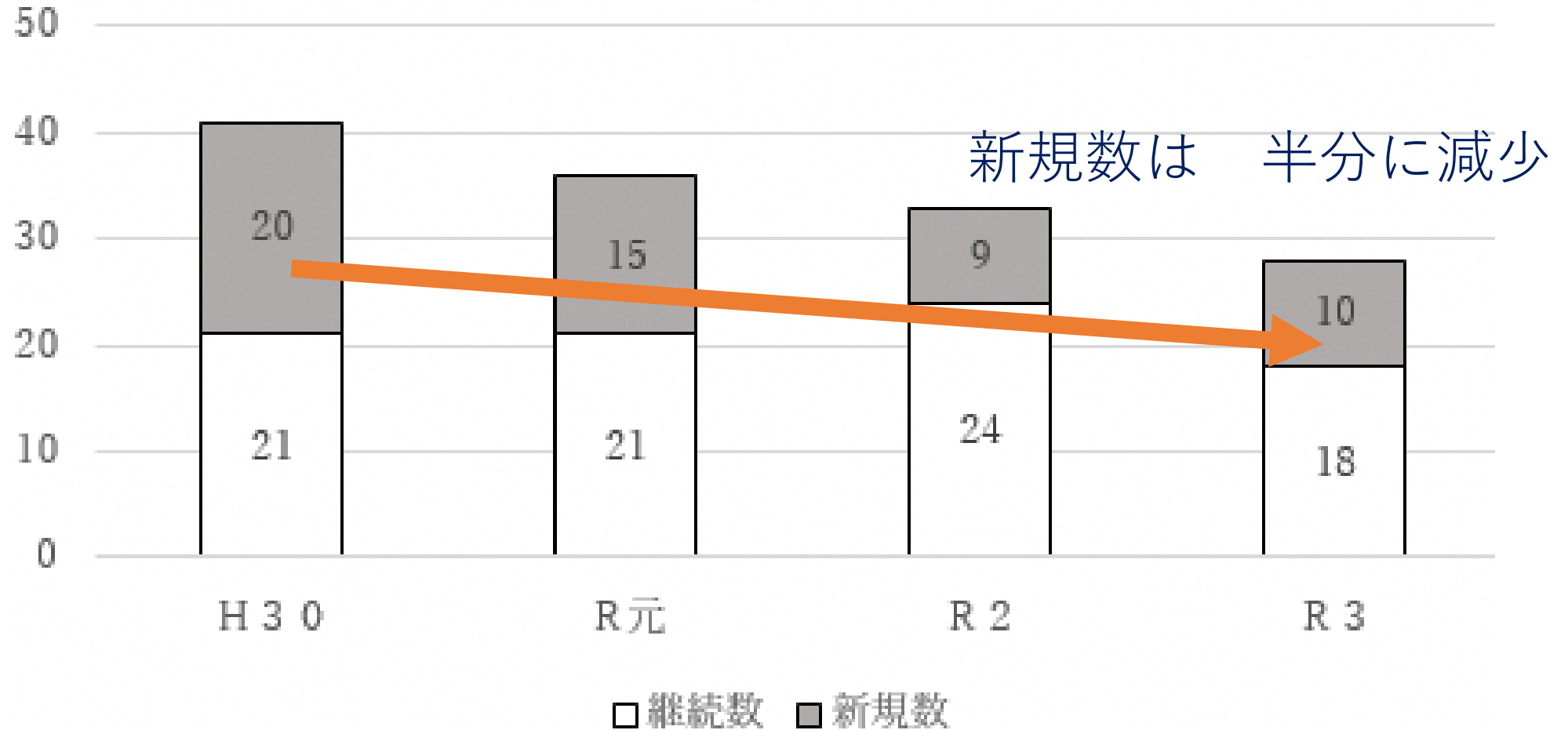


### 嫌な思いをさせていない




# 田子浦小中の不登校の推移

田子浦小中学校



# 田子浦中の不登校出現率の推移

出現率（12月現在）	田子中（％）
R元	5.67
R2	5.79
R3	5.41
R4	4.53



# 魅力ある学校づくりのまとめ

- ①実態に合わせて取り組むことで、新規不登校等は減る。
  - ②不登校等の未然防止を図ることで、結果的に教員の負担は減る。
  - ③学校、学年のチーム力はアップし、同僚性が増す。
  - ④授業、生徒指導の研修が進む。
  - ⑤小中連携（一貫）がより進む。
  - ⑥新しいことに挑戦することに、教職員自身面白さを感じる。
- この取組の本質は、学校組織マネジメント（チームづくり）である。

## 【課題】

- ①教職員の理解を得ること。温度差は必ずある。
- ②負担はゼロではない。
- ③即効性はない。



## 魅力ある学校とはどのような学校か

教職員に聞いたところ、共通しているのは、「誰もが行きたくなる学校。それは生徒にとってだけでなく、教職員も保護者も地域の人にとっても」ということであった。

そのために、子供やその背景にあるもの、時代や社会の要請などを、私たち教職員がしっかり把握・分析することが大切である。

そのうえでより積極的な生徒指導を意識して行うことにより、「居場所」や「絆」が生まれ、誰にとっても居心地がよい、魅力ある学校になっていくのだと思う。

そして最も大切なことは、子供が変わる前に、教職員の意識改革が非常に大きなものになる。

魅力ある学校づくりとは、魅力ある教職員づくりが根底にある。

即効性を期待せず、子供を信じて、地道に着実に、前に進んでいくことが大切であると感じている。